

横浜クリニック 地域医療連携室レター

平成25年9月
第5号

神奈川県神奈川歯科大学附属横浜クリニック地域医療連携室(045-313-5047)

地域医療連携室懇親会を終えて

クリニック院長 井野 智

当クリニック・横浜研修センターは、本年3月12日、地元・神奈川県歯科医師会および西区歯科医師会との合意書を取り交わし、当クリニックが果たすべき地域医療連携の重要性について、改めて確認することができました。そのような中、本年7月に設立11周年を迎え、今回の第1回地域医療連携報告会・懇親会の開催は、当クリニックにとりましては、新たな船出となる極めて重要なイベントであったわけですが、幸いにも、多数のご出席を頂戴し、成功裏に開催できましたのは、関係各位のご指導・ご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

言うまでもなく、私共は医療法人ではなく学校法人であります。私立学校法の第一条に『私立学校の特性にかんがみ、その自主性を重んじ、公共性を高めることによって、私立学校の健全な発達を図ることを目的とする』と記されています。今後も、国民・とりわけ地域の皆様へ果たすべき役割を認識し、持続性を担保した上で、スタッフ一丸となって横浜クリニック・研修センターを展開していきたいと考えておりますので、宜しくお願い申し上げます。



地域医療連携室及び消化器内科開設一年を迎えて

地域医療連携室室長(副院長) 渡邊 浩之

この号の内容

- 1 地域医療連携室懇親会を終えて
- 2 懇親会レジメ掲載
- 3 眼科 病診連絡会報告
- 4 矯正歯科について
- 5 口腔ケアを立ち上げて
- 6 地域医療連携室からの報告

神奈川県神奈川歯科大学附属横浜クリニックに地域医療連携室と消化器内科がオープンして1年が経過しました。消化器内科医として印象に残るのは2名の大腸進行癌の患者さんを手遅れにならずに中核病院に紹介し、手術が成功し臓器転移、リンパ節転移がなかったことです。

今後も地域の先生方の助けを借りながら地域医療に貢献していきたいと考えておりますので、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



懇親会のご報告

平成 25 年 7 月 10 日に懇親会を開催致しました。

院内見学に引き続き懇親会を行いました。懇親会は「診療科からのご報告」から始まりました。

「診療科からのご報告」の内容を下記に載せました。

「当院眼科の手術療法のご紹介」

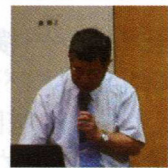
眼科学講座 原 直人



ヒトの日常生活に必要な情報は、80%以上は視覚から情報を得ていると言われ、白内障手術が認知症を軽減させるなど高次脳機能への視覚系の影響は計り知れない。今回、白内障、斜視および眼瞼下垂症と加齢に伴う眼科疾患に関する手術治療について述べる。

「2012年度 大腸内視鏡検査のまとめ」

内科 渡邊 浩之



2012年度の神奈川県立横浜クリニックにおける大腸内視鏡検査の受診者は男性37人、女性19人で平均年齢は男性 55.7±14.4、女性 49.5±17 でした。大腸内視鏡検査を受けるきっかけは便潜血陽性が33%と最も多く、次いで患者さんの希望が23%、血便、血便疑いが18%でした。病変の種類では大腸ポリープが47%と最も多く、次いで痔が19%、正常が13%でした。進行大腸癌と炎症性腸疾患がそれぞれ2名でした。大腸内視鏡検査受診のきっかけで便潜血検査陽性と患者さんの希望が多かったことは大腸癌の早期発見のためにはより一層の啓蒙活動が必要と考えます。

「診療連携に基づく矯正歯科臨床の現状」

高度先進口腔医学講座 矯正科
不島 健持



近年、成人の患者さんの矯正治療が増えております。成人の矯正治療では、成長期の患者さんのように歯の交換や顎の成長といった不確定要素を考慮しなくても良い反面、不正咬合に歯周病や顎関節症、顎変形症などの問題が複合的に関わっていることが少なくありません。そのため、顎口腔領域の形態、機能の包括的な診断、それに基づく予知性の高い治療が求められるとともに、歯周病科、補綴科、口腔外科といった他の歯科専門領域との診療連携の重要性が高まっております。

横浜クリニックでは、各科専門医間の密接な診療連携はもとより、近隣医療機関との診療連携の充実に努めており、先進性の高い歯科医療の提供が可能となっております。

今回は診療連携に基づく矯正治療症例を供覧し、矯正歯科の現状に関しご報告いたします。

懇親会は一般社団法人神奈川県警友会けいゆう病院 病院長 永田 博司先生、横浜市西区医師会 元会長 小柳 光蔵先生の来賓の挨拶より始め、横浜市神奈川区歯科医師会 会長 西山 潔先生の乾杯により和やかに始まりました。



神経眼科疾患、白内障手術や緑内障の患者教育を中心に診療しており、年に一度近隣の眼科医への報告会として横浜眼科診々連携の会を当クリニックにて行っています。今年で第7回を迎え、41名の近隣の医療関係者にご出席いただきました。

1.「緑内障1日勉強会」の現状

勉強会の1日のスケジュールを紹介。

前後に行ったアンケートでは緑内障病態理解が

深まり、点眼治療のアドヒアランスの向上に

役立っていると報告した。(鈴木)



2.白内障手術での術中縮瞳の虹彩挙動

白内障術中に縮瞳してきてしまうという術中虹彩緊張低下

症候群の術中ビデオを供覧。前立腺肥大内服薬者以外でも

おこりうるので注意が必要であり、虹彩裏面あたる水流が成因

ではないかと考察した。(大野晃司非常勤医師)



3.適切な屈折矯正は眼機能異常の90%を改善する

低矯正や過矯正であった眼鏡を適切に矯正することにより

眼痛や複視が改善した症例を供覧し、眼鏡処方的重要性を

強調した。(向野和雄客員教授)



4.眼球運動異常の診方 とくに上下斜視について

上下斜視を生じる代表的な疾患の検査結果や

手術方法を供覧し解説した。(原 直人教授)



出席者からは「内容もわかりやすく大変勉強になった」、「大変勉強になる会なので毎年楽しみにしております」などの感想をいただいています。

今後も地域医療の発展に貢献したいと考えており、患者様のご紹介を賜れば有りがたく存じます。よろしくお願い致します。

近年、成人の方の矯正治療が増えております。その背景には、装置を歯の裏側に隠したり(図.1)透明にしたりと、目立たずより快適に治療できるようになったことがあります。また他専門歯科との診療連携により、より先進的な歯科医療を提供できるようになってきたことも、成人矯正治療の増加と関わっていると考えられます。



図.1 歯の裏側のマルチブラケット装置

歯周病が認められる不正咬合の患者さんでも、歯周病専門医により細菌性の炎症が十分にコントロールされていれば、通常の矯正治療が可能です(図.2)。アゴの形や大きさに問題がある不正咬合に対しては、先進のシミュレーションシステムを用い口腔外科医と綿密な治療計画を立てることにより、顎変形および不正咬合を予定通り改善することができます(図.3)。



図.2 歯周病専門医との診療連携

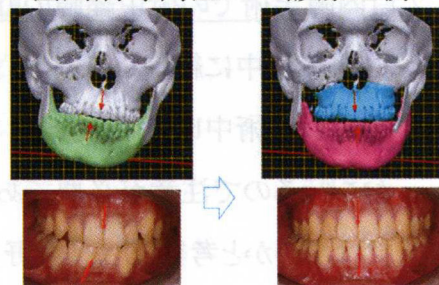


図.3 口腔外科医との診療連携

横浜クリニック矯正歯科では、近隣の関連歯科医院との診療連携により先進矯正歯科医療のご提供に努めていきたいと考えております。診療連携では、以下の原則を徹底させ先生方と良好な連携体制を構築していきたいと思っております。

診療連携の原則

- ① 初診受付のご報告
- ② 診断・治療計画のご報告
- ③ 必要に応じ症例カンファレンスの実施
- ④ 治療結果のご報告
- ⑤ 矯正以外の歯科治療時は、必ずご依頼いただいた歯科医院にお願いする

平成 24 年度からは 5 年間のがん基本対策法がスタートし、そのなかで示された「がん患者の口腔ケアへの取り組み」に対応する形で、平成 24 年度歯科診療報酬に周術期口腔機能管理が新設されました。これは医科と歯科が連携してがん患者の口腔管理を実施することが基本となっています。具体的には「がんの全身麻酔による手術」前後の口腔機能管理による手術時のトラブル防止や誤嚥性肺炎、局所感染の予防と「放射線・薬物療法(抗がん剤)」で行う場合の口腔粘膜炎や口腔内感染症等に対する口腔機能管理をがん治療の支持療法として位置づけ、治療の質の向上を目指すものです。すなわち、「チーム医療の推進や在宅歯科医療の充実」が歯科診療報酬改定により重点配分化されています。

このように口腔管理が全身管理の一つとして公に位置付けられたことは、歯科医療を担う者にとっては重要なことと考える必要があります。わが国は総人口が減少する中で高齢化には歯止めが効かない状態で、横浜市においては 2035 年には人口の半数が 65 歳以上になるとの予測も出ています。

そのため来るべき高齢化社会を見据えて医療・介護における「口腔ケア」の重要視されています。口腔ケアが全身管理の一つであることから、歯科と医科が連携した口腔ケアが理想的と考えられます。すでに歯科や歯科口腔外科を標榜する医学部付属病院や総合病院では、歯科医師・歯科衛生士を中心とした口腔ケアチームが編成されて入院患者に対する専門的な口腔ケアが実践されています。

しかしながら歯科を標榜していない病院では、看護師が中心となって入院患者の口腔ケアを行っていますが、日常の看護業務は多忙を極め、十分な口腔ケアが行われていないのが実情ではないかと考え、横浜クリニック歯科部門では、歯科大学付属機関の責務として、医科・歯科連携、地域医療への貢献を推進するために、口腔ケアの専門的知識および技術を医科に提供してはどうかと考え、歯科を標榜していない病院の入院患者の口腔ケアの実施について検討を行ってきました。

その結果、本年 6 月から医療法人平和会平和病院(横浜市鶴見区:146 床)の入院患者の口腔ケアを行うこととなりました。現在、口腔ケアチームは歯科医師 1 名と歯科衛生士 4 名で編成され、毎週 1 回病院を訪問して療養病棟・緩和病棟を中心に入院患者の口腔ケアを行っています。口腔ケアには看護師が同行し、一緒に患者の口腔内の評価を行い、問題点を抽出して必要な口腔ケアを行っています。また日常の看護師が行う口腔ケアについても、わかりやすく指示を出しています。

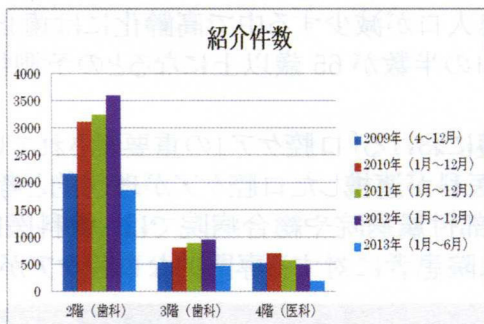
歯科の専門的なスキルを生かし、個々の患者に最善の口腔ケアを行うためにはどうするべきかと、試行錯誤の連続ですが、口腔ケアを依頼する患者も増え、着実に実績を上げています。

今後は、看護師との連携を強化し、より充実した口腔ケアを患者に提供したいと考えています。歯科治療ではなく、口腔治療という価値観の転換こそが歯科が、医科連携に組み込まれるためには必要なことではないかと考えます。

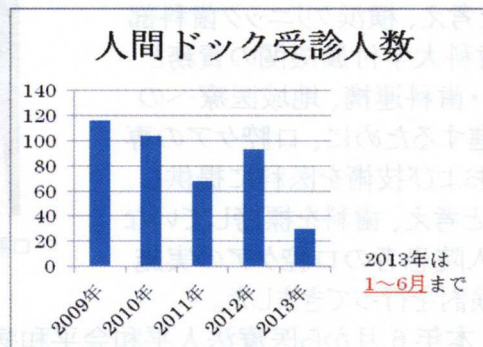


口腔ケアチームの美しき精鋭たち(左から植田、白川、鷺頭、小田桐)

地域医療連携室を開設して1年が経過しました。業務の柱として、地域の医療機関の皆様とより密接に連携出来るようにする事及び地域の事業所の皆様の健康に貢献出来る様な健診の整備を目指しました。また、レターを発行する事で横浜クリニックの診療体制などを広報して、ご理解戴けることを中心に公開講座、無料大腸がん検診などを企画しました。重要な業務の一環として、地域の医療機関の諸先生から紹介して戴いた後の返書の状態を把握する事を連携室の責務として管理して参りました。グラフに地域医療連携室開設前後の紹介件数及び返書の件数を示しました。連携室開設前より紹介元の医療機関には、何らかの方法で返書されていましたが、開設後に返書の把握を明確にする事で、紹介元への返書の確実性が増加いたしました。



また、グラフに健診・ドックの受診人数を示します。近在の事業所及び学校関係の健診が増えて来ております。ドックは、内視鏡の充実、新規医療機器の購入及び買い換えで、健診の検査項目の充実を致しました。



秋以降は、歯科医師国保の契約施設として活動する予定です。また、9月以降ご不自由な面もあった健診報告書を分かりやすい報告書として、新規に導入いたします。今後も地域の皆様と平滑な連携を保つ事、皆様の健康に貢献する事を責務として参ります。宜しく願いいたします。

神奈川歯科大学附属 横浜クリニック
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 3-31-6
TEL:045-313-0007(代) FAX:045-313-0027(代)

Mail:chiiki-irenkei@kdu.ac.jp
<http://www.hama.kdu.ac.jp>

